

2022年度 土木学会関東支部茨城会 現地見学会開催のお知らせ

桜川市と石岡市を結んでいる峠道（上曽峠）の下を新たな道路としてトンネルとしてつなぐ「上曽トンネル整備事業」の建設現場、真壁伝統的建造物群保存地区の現地見学会を下記により実施します。

皆様、奮ってご参加いただきますよう御案内申し上げます。

記

1. 主催：公益社団法人土木学会 関東支部 茨城会
2. 日時：2022 年 12 月 9 日（金）、13:30～16:30 集合・解散
集合：上曽トンネル現場事務所（茨城県桜川市真壁町山尾字北田782-3）
解散：真壁伝承館（茨城県桜川市真壁町真壁198）
3. 場所：上曽トンネル、真壁伝統的建造物群保存地区
4. 日程表（予定）
13:30 現地事務所前駐車場集合
トンネル見学（約1時間30分）
15:00 真壁伝統的建造物群保存地区
真壁伝承館視察
伝統的建造物視察（現地ボランティアガイド案内による）
16:30 解散
5. 参加費：無料（ただし、交通費は各自清算）
6. 募集人員：30名程度 ※先着順とさせていただきます
7. その他：作業服、ヘルメット、長靴をお持ちください
8. 特典：希望者には土木学会CPD単位が発行されます（3.0単位）
9. 申込方法：下記申し込みフォームより参加登録をお願いいたします

<https://forms.gle/BaFWgkcdy66g6d8u9>



※定員に達し次第、申込締切とさせていただきますのでご注意ください

※申込期限：11月10日（木）

連絡先：〒316-8511 日立市中成沢町4-12-1

茨城大学工学部土木学会関東支部事務局 担当：曾我部まで

TEL / FAX : 0294-38-5160 E-mail : sogabe.natsumi.0123@gmail.com

事業紹介 (仮称) 上曽トンネル整備事業

令和4年9月

【事業目的】

(仮称) 上曽トンネル整備事業は、桜川市と石岡市間を結んでいる峠道(上曽峠)の下を、新たな道路としてトンネルでつなぐ幹線道路整備事業です。上曽峠を通る主要地方道石岡筑西線は、山岳道路で道路が狭隘であり、視距も悪く危険であることに加え、冬季には積雪及び路面凍結により、通行規制が余儀なくされております。

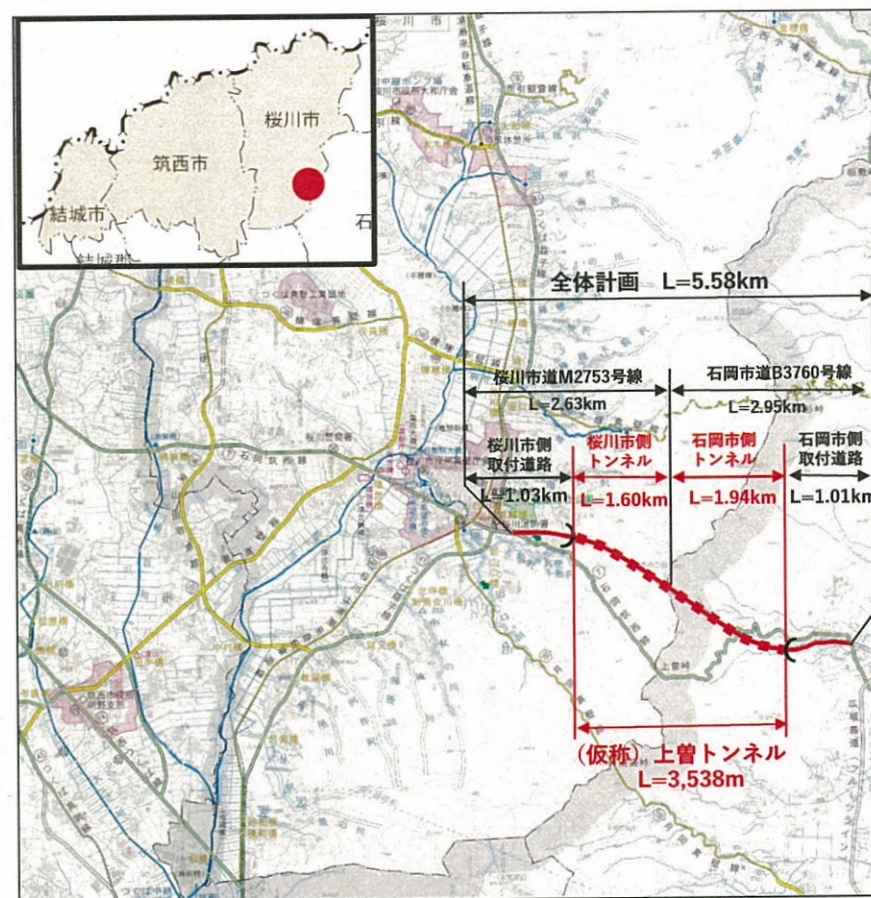
本トンネルを整備することにより、大型車両を含む一般車両の通行が円滑になり、災害時の緊急輸送道路や、東西地域間の交流促進、地域振興に大きく寄与することが期待されます。

また、県西地域から茨城空港までを東西に結ぶ基軸が形成されることから、県南・県西地域間の連携強化を図り、地元産業や物流・観光を支える重要な路線となります。

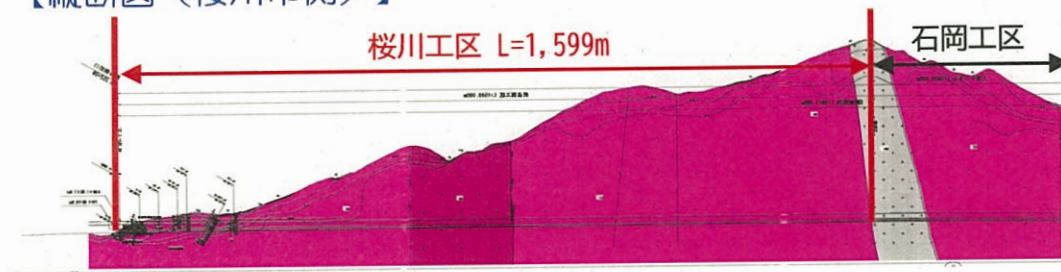
【事業概要】

- 路線名 桜川市道M2753号線、石岡市道B3760号線
- 箇所 桜川市真壁町山尾、石岡市上曽
- 延長 全体 約5.6km (うち、トンネル 約3.5km)
桜川市 約2.6km (うち、トンネル 約1.6km)
- 幅員 トンネル部 W=8.0/6.5m
取付道路部 W=8.0~13.0/6.5m

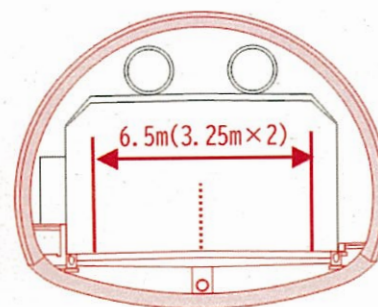
【位置図】



【縦断図(桜川市側)】



【トンネル断面図】

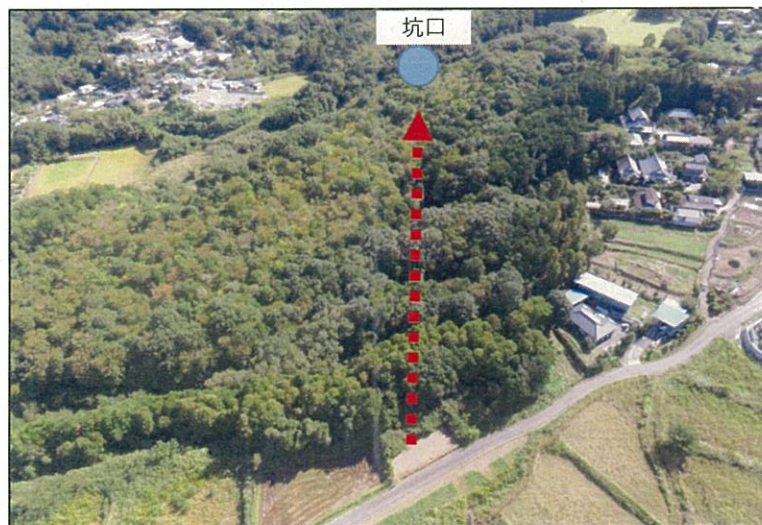


【完成イメージ(桜川市側)】



【施工前後の写真】

施工前（H30年撮影）



現在（R4. 6撮影）



↑ 伐採工事を行い、トンネルへの工事用道路をつくりました。将来は、トンネルへ向かうための道路になります。

【施工状況写真】

掘削（火薬装てん）



固い岩盤を掘るためには火薬を使います。ドリルで細長い孔を空け、そこに火薬を詰めて爆破します。一度の爆破で掘り進める延長は約1～2mです。

吹付コンクリート



掘った部分は、岩が剥き出しの状態では危険なため、岩が崩れ落ちないようにコンクリートを吹き付けて岩盤を固めます。

ロックボルト打込み



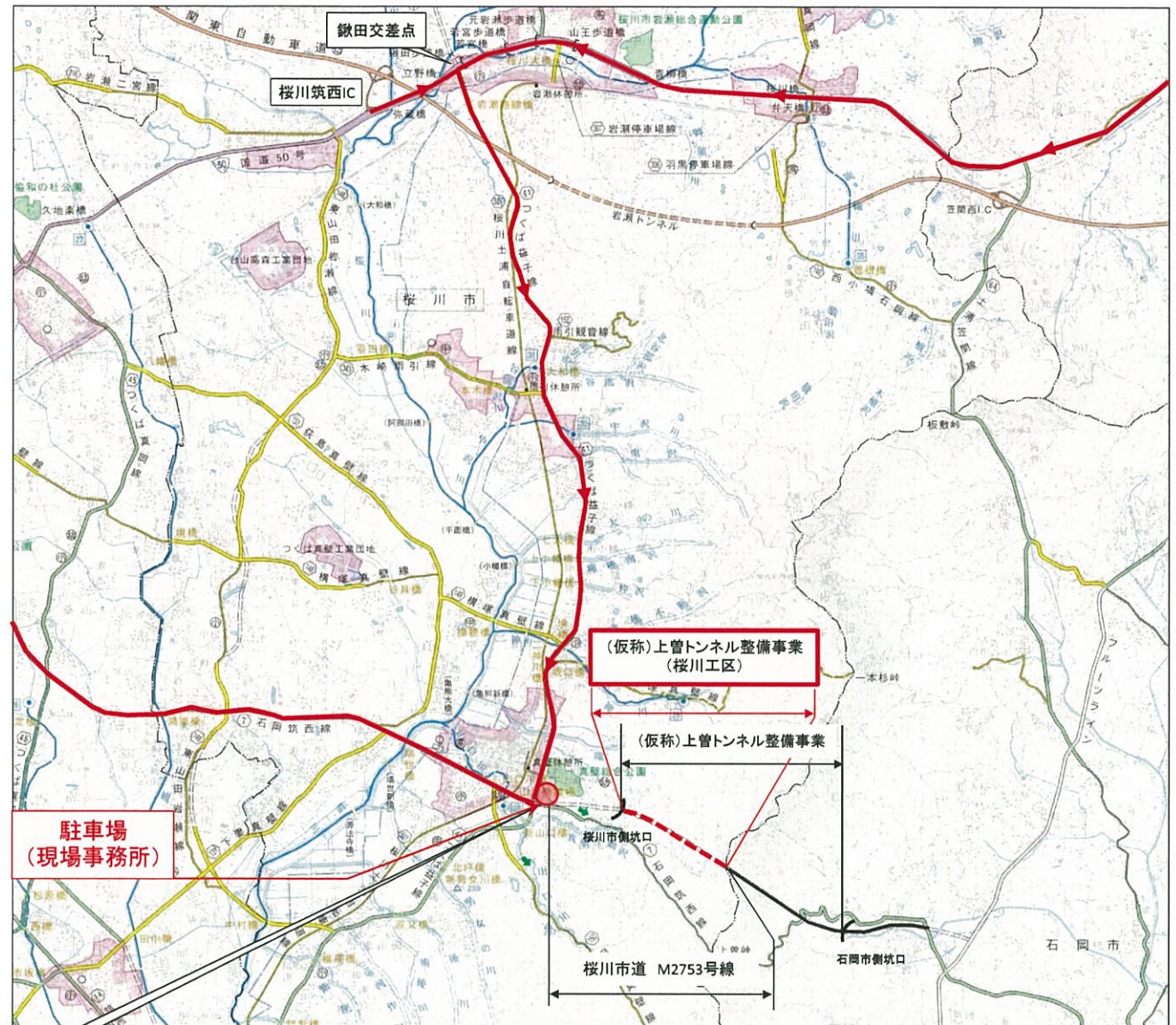
ロックボルト（3～4mの鉄の棒）を放射状に岩盤へ突き刺すことで、山自体が地山を支えている力を利用して、トンネル断面の形状を保持します。

覆工コンクリート



最後にコンクリートの壁（覆工）をつくります。この後、道路舗装、照明灯、消火栓、警報装置などの設備を設置して道路トンネルが完成となります。

(仮称)上曽トンネル整備事業 現地案内図



現場事務所 住所
茨城県桜川市
真壁町山尾字北田
782-3

桜川市真壁伝統的建造物群保存地区

桜川市真壁町真壁を中心とする地域には、99棟の登録文化財をはじめとする数多くの伝統的な建物が存在します。このうち約17.6haが国の重要伝統的建造物群保存地区になっています（平成22年6月国選定）。江戸時代から道幅もほとんど変わらない

町割りに、江戸時代末期から昭和前期の様々な種類の伝統的な建物が建ち並び、商家町でありながら、薬医門や板塀が目立つのも特徴です。



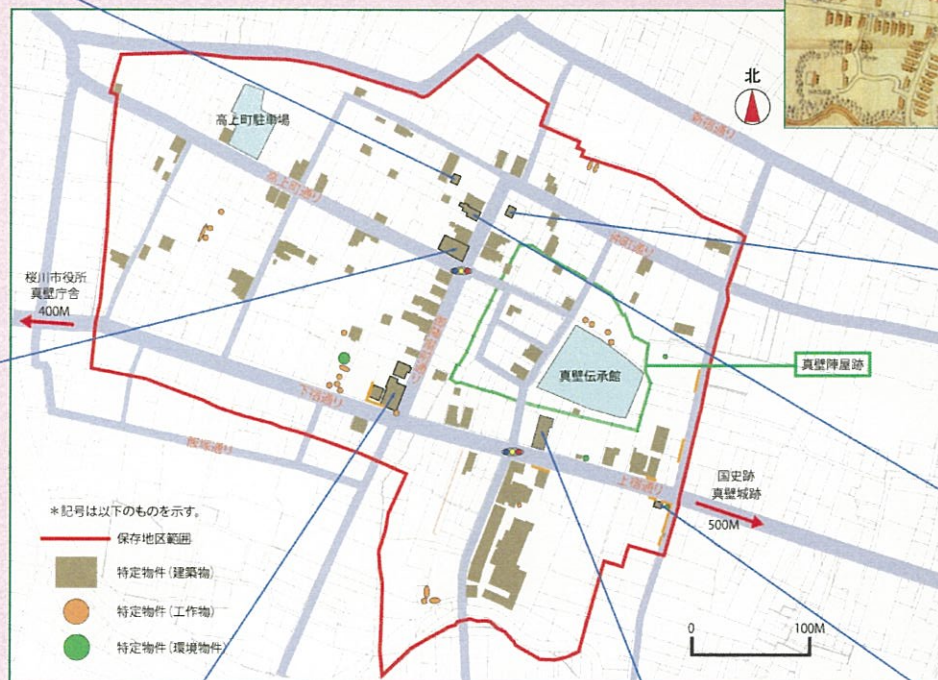
土蔵

敷地の奥に建てられた土蔵は、平入りですが、通りに面したものは妻入り・平入り両方が見られます。外壁は、1階をさらさら下見板張り、2階を白漆喰塗りとしています。写真：川島家土蔵



洋風建築

真壁には本格的な洋館は現存していない。唯一の洋風建築である旧真壁郵便局は内外部に郵便局時代の面影を残したまま、街並み案内所として活用されています。写真：旧真壁郵便局



塗屋

木造真壁造りの店舗のうち、2階の外壁を厚く土で塗り漆喰仕上げとしたものです。湖田家の塗屋は、真壁で最大の間口と梁を誇り、内部で袖蔵とつながっています。写真：湖田家住宅



石蔵

大正時代以降に導入され、外壁は大半が、1・2階ともに石積みを見せています。石材は栃木県産の大谷石を主体に地元産の真壁石も見られます。写真：村井醸造石蔵



薬医門・板塀

二本の親柱の内側にそれぞれ控柱を立て、切妻屋根を乗せたものが典型的な薬医門です。真壁は商人町でありながら門や塀が多いことも特徴です。猪瀬家の薬医門は真壁最大です。写真：猪瀬家薬医門



真壁の町の繁栄

戦国時代の終わりに真壁城の城下町として建設され、廃城後の江戸時代は町の中央に陣屋を置いた町並みが整備されました。江戸時代には、大坂や奈良、岡崎産の木綿を仕入れて木綿市を開き、会津や米沢など東北、北関東の商人を集めて、大きく繁栄します。良質な水に恵まれて、酒造業も24軒を数えました。明治時代には製糸工場も建ち、石材業も興隆し、地域経済の中心地として繁栄を続けました。

「真壁町屋敷絵図」（江戸時代後期、個人蔵）



見世蔵

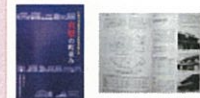
江戸時代末期から明治時代を中心に建てられた木造大壁造りの店舗で、外壁を土壁で厚く塗り込め、漆喰仕上げとした防火建築です。江戸の見世蔵形式を受け継いでいます。写真：川嶋家見世蔵



木造店舗

大正時代を中心に建てられた伝統的な木造真壁造りの店舗で、後ろ側に平屋の住居が続きます。基本的に江戸の町屋形式です。写真：旅籠ふるかわ仲町休憩所

もっと詳しく知りたい方へ
伝建報告書「真壁の街並み」が
2,100円で好評発売中！！



桜川市教育委員会